

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-105	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Simultaneous alcohol and marijuana use among U.S. high school seniors from 1976 to 2011: trends, reasons, and situations. 高校3年生におけるアルコールと大麻の同時使用について：1976-2001年の動向から		
執筆者		
Terry-McElrath YM, O'Malley PM, Johnston LD		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2013 Nov 1;133(1):71-9. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2013.05.031.		
キーワード		PMID
青少年、アルコール、大麻、同時摂取		23806871
要 旨		
<p>目的： アルコールと大麻を同時に使用することは、精神薬理学的な相互の影響があり、重要な課題である。しかし、若年層における同時使用の割合、傾向、関連する要因についての全国的な報告はなかった。</p> <p>方法： 1976-2011年に高校3年生を対象に横断的に行われた国を代表し得る調査である。Monitoring the Future studyからアルコールと大麻の同時使用に関するデータを得た。解析は2012年に行った。</p> <p>結果： 2011年には高校3年生の23%がアルコールと大麻の同時使用の経験があることを申告した。一年以内に大麻を使用していたもののうち、大麻を使用した時に飲酒したことがあるものは62%であり、大麻使用時はほぼ毎回飲酒していたものが13%であった。同時使用の割合の経年的変化は、過去30日以内の飲酒者の割合の経年的変化と同様であった。大麻とアルコールの同時使用は、社会心理的、地域的な特徴があり、薬物乱用と強い相関を認めた。アルコールや大麻を使用する理由(より効果を強めるためなど)と使用状況(公園、ビーチ、車、パーティ)とアルコールと大麻の同時使用と関連を認めた。</p> <p>結論： 多数の高校3年生がアルコールと大麻の同時使用の経験があり、その社会的影響は看過できない。アルコールと大麻の同時使用の行動様式は、同時に使う理由や特に多量の飲酒や依存の認知に関連づけられる一般的な薬物乱用のパターンが見られる。</p>		